

茅場再生へ勉強会

上平・菅沼住民

越中五箇山菅沼集落保存顕彰会は21日、南砺市菅沼（上平）の同集落で茅場再生勉強会を開いた。住民の高齢化や人口の減少が進む中、国内の茅場の現況や新たに始まっている取り組みについて話を聞き、茅場の保全と活用について考えた。



安藤代表理事（右）の講演を聞く参加者＝南砺市菅沼

顕彰会は世界文化遺産の集落を守っていくため、本年度から合掌造りの屋根に使う茅について勉強会を開き、茅場を造成する活動を行った。今回は来年度の取り組みの参考にしようと企画し、住民や市職員ら約30人が集まった。

日本茅葺き文化協会（茨城）の安藤邦廣代表理事（筑波大教授）が講師を務め、多くの茅を出荷している富士山のふもとの御殿場、阿蘇外輪山などの茅場の現状を説明。茅などが育つ草原の価値を見直し

守っていくことが「合掌造りなどの伝統文化や生物多様性の保全につながる」と述べた。東日本大震災で仮設住宅の一部の屋根断熱材にススキを活用した例を挙げ、茅の活用の可能性を指摘した。

エコツーリズムなどへの関心の高まりから、茅の刈り取りなどに若者が多く参加している実態を踏まえ、茅場が自然や文化、環境の学びの場となると指摘。「五箇山は『学校』がでざる最高の立地になる」と提案した。